

第5次総合計画 前期基本計画 施策評価シート

施策名	自ら取り組む健康づくりの推進	施策番号	1
主担当部署	部名	部長名	
	保健福祉部 保健福祉部医療制度改革担当 教育部	小林 幹夫 井上 稔 谷亀 博久	

計 画 (Plan)			
総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1 誰もが明るく暮らせるまち
		基本政策	1 健やかに生き生きと暮らせるまちづくり
		施策展開の方向	1 生涯にわたって健康に暮らせるまちをつくる
施策展開の方向 (内容)	医療機関や大学など、本市の恵まれた地域資源の活用により、若い世代から高齢者まで、より多くの人が体力づくりや食生活の改善などを通じた健康づくりに取り組むまちをつくります。 健康診査の受診を促すなど、病気の予防や早期発見、早期治療に向け総合的に取り組むとともに、地域の医療機関の機能強化や救急医療体制の維持、充実を支援し、いつまでも健康に暮らせるまちをつくります。		
施策内容	若い世代から高齢者まで、誰もが健康で生き生きとした暮らしを実現するとともに、増加を続ける医療費の適正化を図るため、市内の医療機関などとも連携し、健康づくりに欠かすことのできない体力づくりや食生活改善に市民が自主的に取り組む、環境や機会の提供に努めます。 また、疾病の予防や早期発見・早期治療に向けて、健康診査や各種検診の充実を図ります。特に、若い世代から日常の生活習慣を改善するため、若年層に対する健康診査の充実を図ります。		
目標とする状態	多くの人たちが、健康づくりのための体力づくりや食生活改善に取り組むようになっています。 自ら進んで健康診査や検診を受診し、健康状態の確認ができています。		
目標の達成度を測る指標	【指標名】	区分	
		【当初値】	【目標値】
	BMI(肥満指数)25以上の市民の割合	17.3%	15.0%
	がん検診の受診率	11.5%	17.0%
施策を構成する「主な事業」	主な事業	事業の概要	
	恵まれた医療を活用した健康づくり推進事業	市民が自らの心身の状況に関心を持ち、生活習慣などの振り返り、改善が行えるように、医療機関などと連携し、健康教育、健康相談の実施、健康いせはらサポーターの育成・活動支援を行います。	
	特定健康診査・特定保健指導(国保)利用推進事業	医療機関との連携のもとに生活習慣病予防に対する意識を高める啓発事業を実施し、特定保健指導の受診率向上などを図ります。	
	体力づくり推進事業	市内の大学や関係団体と連携して、市民が自ら取り組むことのできる健康づくりの場や機会の提供、支援を実施します。	
	食を通じた健康づくり推進事業	生活習慣病を予防するための食に関する教室や相談を実施し、子どもから高齢者まで、食を通じた市民の健康づくりを推進します。	
	健診を通じた健康づくり推進事業	特定健康診査の対象とならない39歳以下の市民を対象とした身体測定、血液検査などの健康診査を行います。	
	がん検診推進事業	健康増進法に基づく胃、大腸、肺、乳、子宮がん検診などを実施するとともに、より多くの市民に受診を促すため、受診勧奨に努めます。	

 事業実施(Do)へ

施策実施 (D)

指標の達成状況	【指標名】	当初値	目標値	目標の方向	実績・見込(下段:達成率)			
					H25	H26	H27	H29見込
					BMI(肥満指数)25以上の市民の割合	17.3%	15.0%	↘
がん検診の受診率		11.5%	17.0%	↗	—	78.1%	84.7%	100.0%
					12.7%	13.1%	13.6%	17.00%
					74.7%	77.1%	80.0%	100.0%

コスト	年度	H25年度 実績額		H26年度 実績額		H27年度 実績額		H28年度 予算額		H29年度 計画額	
	事業費合計(a)	66,524	千円	69,717	千円	73,979	千円	95,320	千円	97,666	千円
	人件費合計(b)	15,556	千円	13,856	千円	16,132	千円	16,132	千円	16,132	千円
	トータルコスト(a)+(b)	82,080	千円	83,573	千円	90,111	千円	111,452	千円	113,798	千円

市民意識	項目		平成27年度		満足度と重要度の相関図			その他の市民ニーズ、意見		
	満足度	施策の値	0.39		A	B	← 満足度 →	優先的課題 ニーズ充足	選択的課題 現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・市の検診を充実して欲しい ・健康維持・増進活動の強化が医療費抑制に繋がる ・健康づくり等のためのスポーツ施設等を充実して欲しい ・たくさん医療機関にかかっている人と、ぜんぜんかかっていない人の健康保険料の額が同じということはどうかと思う ・早朝に街角等でラジオ体操、伊勢原体操の会を開催していただけないか
		平均値	0.32							
	重要度	施策の値	1.17		D	C	↑ 重要度 ↓	1.20		
平均値		1.20								
					0.32					

■施策を構成する「主な事業」の目標達成状況

NO.	事業番号	事業名	事業指標	当初値	H27年度目標	H27年度実績	目標達成状況	所属名
1	01-101	恵まれた医療を活用した健康づくり推進事業	健康相談参加者数	3,500人	3,650人	5,497人	◎	健康管理課
2	01-102-1	恵まれた医療を活用した疾病予防推進事業	特定保健指導実施者数	95人	494人	93人	△	保険年金課
3	01-102-2	恵まれた医療を活用した疾病予防推進事業	講演会の参加者数	0人	280人	1,300人	◎	健康管理課
4	01-103	体力づくり推進事業	健康促進プログラムの提供を受けた市民の延べ人数(累計)	120人	480人	476人	○	スポーツ課
5	01-104	食を通じた健康づくり推進事業	栄養教育・栄養相談の参加者数	2,200人	2,350人	2,892人	◎	健康管理課
6	01-105	健診を通じた健康づくり推進事業	39歳以下の健康診査受診者数	135人	210人	164人	○	健康管理課
7	01-106	がん検診推進事業	がん検診受診者数	14,500人	14,900人	14,752人	○	健康管理課

■施策を構成する「主な事業」の平成28年度評価結果(平成27年度事業分)

NO.	事業番号	事業名	進捗状況	実施水準	有効性	効率性	今後の方向性	所属名
1	01-101	恵まれた医療を活用した健康づくり推進事業	A	A	A	A	A	健康管理課
2	01-102-1	恵まれた医療を活用した疾病予防推進事業	C	B	A	B	B	保険年金課
3	01-102-2	恵まれた医療を活用した疾病予防推進事業	A	B	A	A	A	健康管理課
4	01-103	体力づくり推進事業	A	B	A	A	A	スポーツ課
5	01-104	食を通じた健康づくり推進事業	A	B	B	A	A	健康管理課
6	01-105	健診を通じた健康づくり推進事業	B	—	A	B	A	健康管理課
7	01-106	がん検診推進事業	B	C	A	B	A	健康管理課

↓ 評価 (Check)へ

評 価 (Check)

指標(施策の目標)の達成度評価 [選択・記入]	<input type="radio"/> 既に達成している(A) <input checked="" type="radio"/> 順調に進捗している(B) <input type="radio"/> 遅れているが達成する見込み(C) <input type="radio"/> 遅れており達成が見込まれない(D)	B	左記判断理由	「BMI(肥満指数)25以上の市民の割合」は、食育に関する教育や相談の参加者は増加傾向にあり、目標を達成する見込みである。 「がん検診の受診率」は、肺がん検診を従来の集団検診に加え施設健診を実施することで受診率の向上が見込まれ、目標を達成する見込みである。
「目標とする状態」に向けた取組手法の有効性 [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 高い(A) <input type="radio"/> 普通(B) <input type="radio"/> 低い(C)	A	取組による成果	若い世代から高齢者まで、誰もが健康で生き生きとした暮らしができるように、市民が体力づくりや食生活改善に自主的に取り組む環境や機会の提供をするとともに、疾病の予防や早期発見・早期治療に向けて、健康診査や各種検診、保健指導等を行い、市民の健康の維持増進を推進した。
市民意識の反映 [選択・記入]	<input type="radio"/> 反映している(A) <input checked="" type="radio"/> 概ね反映している(B) <input type="radio"/> 反映できていない(C)	B	左記判断理由	平成27年度に行った市民意識調査では満足度が平均点を上回っており、前回調査と比較して満足度は上昇しており、ニーズは概ね充足していると考えられるが、健康づくりの推進に関する意見が寄せられており、身近であり関心の高いことから、引き続き本施策を着実に推進することが必要と考える。
施策を取り巻く環境変化	高齢化の進展、生活習慣の変化などにより、がんや循環器疾患などの生活習慣病の増加しており、食習慣の乱れによる「肥満」や、若い女性の「やせ」も増加している一方、健康に対する意識は高まっており、運動やスポーツに関心を持つ人が増加している。 また、自殺対策基本法の改定により、地域の実情を勘案した自殺を防ぐための計画の策定が義務となった。			
施策推進上の課題	誰もが健康で生き生きとした暮らしをできるだけ長く続けることが重要であり、健康上の問題で日常生活が制限されることのない期間、いわゆる「健康寿命」を延伸することが必要であり、そのためには多くの市民に健康づくりの各事業に参加(受診)をしていただくことが必要である。特に特定保健指導には該当しないが健康診断等の数値が高い方や運動実施率の低い20代から40代の市民への働きかけが重要である。 自殺者数について社会全体としては、人数は減ってきてはいるが、依然多くの人が亡くなっているため、対応が必要である。			

↓ 施策の改善 (Action) へ

施策の方向性 (Action)

今後の方向性の判断	取組の方向性 [選択]	<input checked="" type="radio"/> 拡大して実施 <input type="radio"/> 継続実施 <input type="radio"/> 縮小して実施 <input type="radio"/> 抜本的見直し	左記判断理由	関係機関等と連携し、ライフステージに応じた望ましい生活習慣や食生活の改善を推進する。 成人期からの健康診査、がん検診などの受診促進、KDB(国保データベース)を活用した事業の推進及び、様々な世代に対する身近な運動やスポーツ機会の提供を図る。 また、より多くの市民に参加(受診)していただくため、ICTを活用したクリン健康ポイント事業のように工夫をして、事業に取り組む。 さらに、自殺対策として既存の事業の実施と合わせ、計画策定を推進する。
	施策の方向性 [選択]	<input type="radio"/> 継続 <input checked="" type="radio"/> 見直し	左記判断理由	誰もが、高齢になっても健康で生き生きとした生活ができるように、関係機関等とも連携し、「食育」、「健(検)診」、「運動」、「生きがいづくり」を通じて健康づくりを進め、健康診査の受診を促す等、病気の予防や早期発見、早期治療にも推進する。 また、施策の新たな視点として自殺対策を加える。